

第 52 回戦没・殉職船員追悼式 海の平和を希求し鎮魂の祈り

5 月 14 日、神奈川県横須賀市の神奈川県立観音崎公園内にある「戦没船員の碑」前で、公益財団法人日本殉職船員顕彰会（内藤忠顕会長）が主催する第 52 回戦没・殉職船員追悼式がしめやかに執り行われた。観音崎公園には「戦没船員の碑」が建立され、先の大戦で尊い命を奪われた戦没船員と、海上での事故や災害で殉職された船員の御霊が祀られている。追悼式には、遺族や海事関係者など約 340 人が参列した。組合からは松浦満晴組合長をはじめ多くの執行部が、また全国海友婦人会から酒井智代子会長が参列し、海上で戦没・殉職した船員の鎮魂と海の平和を祈った。

開式 30 分前の午前 10 時 30 分には会場が参列者で埋まり、同時に海上自衛隊横須賀音楽隊による前奏が行われ、会場を安らかな音色で包んだ。

追悼式は 11 時から公益財団法人日本殉職船員顕彰会の岡本永興常務理事の進行で始められ、国歌斉唱に続き「安らかに ねむれわが友よ 波静かなれ とこしえに」と刻まれた碑文石の前で、参列者全員が 1 分間の黙とうをささげた。

主催者を代表して、内藤忠顕会長は「先の大戦において、物資等の輸送に従事し、祖国を思い、家族を案じつつ、戦禍に斃れた戦没船員 6 万 643 人と海難等により殉職された 2975 人の御霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

今日の海洋国家日本としての平和と繁栄は、志半ばで海に散った戦没船員と、わが国の復興を支えた海運・水産業で、不幸にしてその職に殉じた船員の尊い犠牲の上に築かれたものであることを忘れてはなりません。また、かけがえのない家族を失った深い悲しみに耐え、幾多の困難を乗り越えてこられたご遺族の労苦と心情に思いをいたし、改めて心からの哀悼の意と深甚なる敬意を表します。

さて、今年は終戦から 80 年という節目の年を迎えます。戦争の記憶は年を追って薄れていきますが、戦争の悲惨さを次の世代へと継承していかなければなりません。私たちは、これからも戦没・殉職船員の御霊・顕彰と、海洋国家日本のとこしえの平和と安全を祈念していくことをここにお誓いいたします。『安らかにねむれ わが友よ 波静かなれ とこしえに』 ご参列いただいた皆さまとともに、この碑に刻まれた御霊への祈りを捧げ、本会を代表しての式辞といたします」と述べた。

続いて、内閣総理大臣追悼の辞を、古川康国土交通副大臣が代読した。

その後「鎮魂曲」の奏楽の中、内藤忠顕会長の献花、遺族代表の献花と続き、各代表献花では組合から松浦満晴組合長が全国海友婦人会の酒井智代子会長とそろって献花し、戦没・殉職船員へ祈りをささげた。最後に会場の参列者全員が白菊を献花した後、観世一門による能楽「海霊」が奉納され、追悼式は終了した。

「海員だより」